

第12回心理士講習会

「農園芸を活用した認知症ケア（宇良千秋先生）」

受講者からの質問と宇良先生からの回答は、下記をご参照ください。

【質問】

例えば、お酒を飲む席に同席する活動はセクハラ被害を受けるなどの危険が伴い、支援者として参加したくないと感じる方もいるのではないかと思います。その他の活動についても、要支援者の必要に合わせた活動を診断後支援として選択した場合に、支援者や家族介護者の安全や信条面での安心感と対立する場合もあるかと思えます。多様な社会資源を掘り起こしてニーズに合致するものを取り揃えていくほかに、それらとの向き合い方をどのように支援者に教育していくのがよいとお考えか、ぜひお聞かせください。

【回答】

重要なお指摘・ご質問をありがとうございます。

ご質問を受けまして、改めて、診断後支援の効果については、量的評価や質的評価、また、ご本人やご家族、専門職、地域の支援者、住民、行政、民間の視点など、多様な立場からの多面的な評価が必要であると気づかされました。

現在進行中の働く場の効果に関する研究や今後の診断後支援研究についても、このような多面的な評価を取り入れながら実行可能性や効果を検証していきたいと思えます。